

- ② バザー関連
- ◆ 「バザー委員会」を早めにスタートしたい。去年は6月にスタートしたが、本年度活動開始は5月とする。
 - ◆ 4月の壮年会 / 婦人会で各2名の委員を選出する。
 - ◆ 「バザー委員会」構成メンバー：行事委員(委員長)、委員会委員長、財務委員、壮年会2名、婦人会2名
- ③ 運営グループに対する要望
- ◆ 現在までに典礼、財務、要理の各グループで活動開始。布教グループも検討中。

- ④ 「葬儀取扱規定」関連
- ◆ 3月14日(日)関係者打ち合わせ会を実施。
 - ◆ 謝礼等の確認 ⇒ 神父謝礼 10,000 教会謝礼 90,000 合計 100,000 を確認。
 - ◆ お手伝い者更衣室：台所奥和室を使用。(神父様承諾済み)
 - ◆ 宿泊者用寝具：貸しぶとんをお勧めする。(教会のも使える)
 - ◆ 信徒連絡網：通常連絡網で周知せしめたあとで、さらにお手伝い者確保のため別連絡網を設置。
 - ◆ 追悼ミサは「葬儀」の中を含めない。

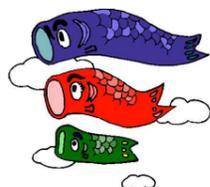
4. 委員・グループよりの連絡事項

- ① 典礼委員
- ◆ 典礼関係消耗品類は、毎年3～4万円程度予算化。
 - ◆ 侍者服(1着 9,500円)135cm用2着、150cm用2着購入
- ② 販売店グループ：販売コーナ設置(事務所内)提案を承認
- ③ 壮年会から出た事案について
- ◆ オルガンの調律・メンテについて ⇒ オルガン奏者にも相談し、その上で見積りをもって別途検討。
 - ◆ 玄関スノコの新調の件 ⇒ 七浦さん、古田さんの計画案で、合わせ溝の無い板材使用で進める。
 - ◆ アンブの件 ⇒ マイク、スピーカー、配線など込み込みで根本的に検討してから決める。
 - ◆ ミサ中の動作の統一(特に聖変化時)：できたらご聖体を仰ぎ見てから、司祭に合わせて礼拝をする(神父様)。
- ④ 婦人会から山崎神父様にお見舞いを差し上げる。(会長)
- ⑤ その他
- ◆ 甲斐委員から「心のともしび」の(教会としての)定期購読についての相談。⇒ 部数を減らし(50⇒20部)継続。
 - ◆ 聖公会との集いは5/9(日)開催で調整中(グルニエ神父様)

婦人会だより

< 4月18日(日) 28名出席 >

1. 委員会報告
2. お知らせ
- ① 新会員紹介 中村幸子さん(C地区) TEL 803-9498
- ② 4月3日(土)大掃除には25名の方がご協力くださいました。復活祭前日、当日には行事(食事)担当グループを中心に他の方々の協力がありました。
- ③ 今後、例会の始めに、ご病気の会員のためにロザリオ連と「病者の為の祈り」を唱えることになりました。お祈りのカードは用意致しますのでロザリオをお持ちになって下さい。
- ④ ミサ後の聖堂掃除の用具の準備と後始末は、例会の当番地区が月ぎめでします。5月はC地区となりますのでよろしくお願ひ致します。
- ⑤ 手芸、洋裁グループより
- 毎週木曜日、1時～4時迄作業をしています。みなさまからのバザー向けの作品のアイデアを募集しています。
- ⑥ 6月の例会後に、不用衣料品の交換会をいたします。集会室にダンボールを置きますのでご協力ください。
- ⑦ 婦人同志会遠足のお知らせ 6月30日(水) 関口教会訪問、オトワ御殿、鳩山邸など。
- 【次回例会は5月16日(日) 当番はC地区】



壮年会だより

< 4月18日(日) 14名出席 >

1. 委員会報告(詳細略)
2. バザー委員選出
- ◆ 壮年会、婦人会より各2名選出するが、本年度は当番小野、山本(仁)両氏が委員を担当
3. サロン運営:
- ◆ 4/25は高野神父初ミサのためサロンは中止
 - ◆ 5/09は伊藤神学生の歓迎サロン(花束、ケーキは婦人会が準備して下さい; お菓子は別途確認)
4. 婦人会(山本さん)からの検討依頼
- ◆ ミサ後の掃除のやり方: ⇒ 壮年会としては、「今の運営のままでよい」を総意とする
5. 4/25 高野神父様の初ミサ@中和田教会と祝賀会
- ◆ 前日(4/24)のテント張りなど準備: 10:00amより準備開始。別途連絡網で協力を要請する。
 - ◆ 飲み物の準備(前の関係委員の打合せ通り、壮年会/婦人会で10,000円を折半して負担)
6. 当番の確認
- ◆ 先唱、聖書朗読: 配布した予定表に基づき確認(欠席者については別途確認(小野氏))
 - ◆ 広報なかわだ原稿7月分については、「復活祭インタビュー」の形でまとめる(担当は山本(仁)さん)
7. 葬儀手伝い段取り関連
- ◆ 連絡網整備: 掲示に記入頂いた方々を中心に別途作成する(小野氏)
 - ◆ 「屋外班マニュアル」: 「会計」の項の見直し
 - ◆ 4月度委員会の決定内容に基づき屋外班マニュアルを変更する。具体的には記述を『・・・喪主様に事前に集計後、「どなたに渡すか」を確認し、式が終了時等にお渡しする。』を『・・・喪主様にお渡しする。』と一部記述を削除する。
8. サロンの運営
- ◆ 川崎 JOCより畑田昌孝様が壮年会に特別出席され、グルニエ神父様よりご紹介を頂いて来訪目的の説明があった。
 - ◆ 来訪目的は「(働く若者のための) コミュニティーサロンの創設」であり、このために『開催場所として中和田教会(日曜日午後を希望)、サロン運営機材の提供』を希望されている。
 - ◆ 結論として、『壮年会の総意』としては(「開かれた教会」を目指す目的にも合致することもあり) 今回のお話の主旨に賛同するが、従来の「中和田サロン」とは主旨が異なることもあり、切り離れた別運営としたい。
 - ◆ また、本件は「委員会の決定アイテム」であり、委員会で審議頂くこととする。
9. その他、自由発言など
- ◆ 東原さんより、「運営基準見直し」に関する補足説明あり。
 - ・4/17に第2回目を開催。(1回目のメンバーに加えて、鈴木さん、小山さん、松下さんが参画)
 - ・開催は、「行事の無い日曜日」「行事のある場合は前日の土曜日」を原則に運営していく。
 - ◆ 小谷さんより、オルガン調律、メンテについては既にヤマハにアレンジ済みとのことあり。
 - ◆ 玄関スノコの新調は、古田さんのご都合が悪くなったが、七浦さんより一人で可とのことあり、お願いすることとした。
 - ◆ 会員が増えて来たことで、住所録や連絡網の改訂が必要だが、原稿は山本(仁)氏、電子ファイル化は小野氏の分担で進める。



広報 なかわだ

5月の予定

委員会	5月 2日
主の昇天	5月 23日
聖霊降臨の主日	5月 30日
壮年会、婦人会	5月 16日
サロン	5月 9, 23日
レジオ	5月 14, 28日



2004年 5月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho-ne.jp/nakawadacatholic/>

平成16年5月3日



「五月」のことを思い起こしながら

ジャック グルニエ 神父



今カナダ人であるわたしから見ると、5月(仏語、maiメー)とは一番美しい春が来たという期間です。そして何よりも先ず思い浮かぶのは、土のよい香りです。母が家のそばに小さな野菜畑を作るために耕していた土、再び柔らかくなったばかりのその土の香り。それに加わって、あちらこちらに鮮やかに現れ始めていた新緑や花々の彩。

5月中、夕暮れになると、教会の鐘が一斉に鳴って祈りへとわれわれを招いていた。マリアの月、聖マリアの月だからです。その頃になると、日が長くなったり、暖かくなったりしていたので、人々はにぎやかなおしゃべりをしながら外で長居をしていた。もちろん子供たちも、暑い季節に行なう遊びの伝統を新たに継いでいた。

わたしは今月にも2週間あまりケベックへ帰るわけなので、今このような思い出を語っているのではないかと皆さんは思うでしょう。それはそうかもしれません。しかしながら、正直に言うと、わたしは少なくとも今年の4月の半ば以来、以上言ったような気分になっているのですよ。なぜならば泉区の4月もケベックの5月もたいへん似ているからです。

さて、やっと春が来たとの便りを送ってくれるいちばんはっきりした一つのしるしは、やはり再びおもてで時間を過ごすようになった子供たちの元気な声や笑いではないかと思えます。

「イエス・キリストのことを思い起こしなさい。この方は、死者の中から復活されたのです。」

そして聖マリアのように主イエスのことを思い起こしましょう。

父と子から下って、いのちを吹き入れる息吹、聖霊は、確かにすべての土地を新たにします!



お知らせ

受洗おめでとうございます

4月10日 聖なる復活の徹夜祭に
マリアカタリナ 大宮 ひとみ
クララ 中村 幸子
ベルナデッタ 森下 孝枝

4月11日 復活の日中ミサに
ミカエル 伊丹 信敏
ミカエラ 伊丹 日向子



御願ひ

★婦人会・『手芸・洋裁グループ』からの御願ひがあります。婦人会報告を御覧下さい。

★オルガン演奏の奉仕をして下さる方を募集しております。御協力頂ける方は、岩渕まで御連絡下さい。(☎ 045-862-1075)



聖霊をめぐる

小野寺 功

最近の教会活動を通して実感されることは、以前よりも、「聖霊に向けて」の祈りが強調されてきていることです。そして、聖霊といえば、次ぎのようなエピソードを思い出します。

それは私が在職中のことですが、ある知人のお孫さんが、たまたまカトリック系の幼稚園に入園して、シスターからお祈りを習ってきました。さっそく家族の前で食前のお祈りをしたのですが、「父と子と聖霊のみ名によってアーメン」と言ったあと突然、「おじいちゃん、聖霊ってなに？」と質問されたということです。

孫に目がないこの老教授は、私にわざわざ電話をかけてきて、「君はカトリックだからわかると思うが、こういう時はどう返事をすればいいのかね」とたずねてきたことがあります。私も「ウーン、それは…」と絶句してしまいました。

私は、今と違って、「公教要理」を学んでカトリック信者になった古い世代に属しています。その時は、ドイツ人のボッシュ神父から、キリスト教とは「父と子と聖霊」の三位一体の神を信じる宗教と教わった覚えがあります。しかし、聖霊については、まったくあいまいなまま過ごしてきてしまいました。

ある時私はそのことに気づき、発想を転換して、「聖霊において、キリストを通して父へ」と導かれていく道を開拓してきました。そうしたら、なんとなく習慣化した信仰に血が通い、自分の「いのち」として躍動するようになってきました。

それで私は、聖霊問題の重要性について考えた事柄を、「聖霊の神学」※と題して「春風社」から出しました。まったく一般受けしない内容なのに、反響の強さに私自身驚いています。また、そうした逆転の発想がよほど珍しかったのか、NHKからも声がかかって、昨年「宗教の時間」に、「聖霊をめぐる」という題で話す機会がありました。

そこで経験したことは、キリスト教に無縁な人たちから「あれはよくわかった」という声が多く聞かれたことで、これは私にとって大変意外なことでした。そして改めて、日本人は聖霊感覚に特別敏感であることに気づかされました。

そして最後に、これは私の勝手な考えですが、作家の遠藤周作が取り組んできた「日本人とキリスト教」の本格的な出会いは、「聖霊の宗教」としてのキリスト教にめざめる時、はじめて可能になるのではないかと思います。— あのお孫さんの単純な問いに応答していくところに、信仰の活性化の道があると思うこの頃です。

※ 聖霊の神学 小野寺 功 著 春風社 2003年7月刊 7,980円

西田幾多郎・鈴木大拙・西谷啓治などの日本哲学を媒介にして、キリスト教・三位一体論を聖霊の神学と捉えなおし、現代に復興する野心的大著！



大地と霊性 — 著者の「いのち」の言葉は、私たちに「いのち」の目覚めへと誘う。日本の大地に深く根ざして、大地からの霊性の気に浸透されつつ、賢治、大拙、西田を「いのちの思想家」としてうけつぐ著者は、カトリックの信仰に生きる。
「西田哲学から聖霊の神学へ」 — この著作に私たちは世界霊性史上ひとつの新しい峯を仰ぎ見る。小野寺功さんの生涯は、日本の大地への聖霊の深く豊かな着地体になっていると言っても過言ではないであろう。
(推薦・上田閑照)

哀しいときはお馬も涙を流すのです



また負けて、心ほのぼのハルウララ

竹内 広治

中央競馬の天才ジョッキー武豊騎手が、いかに手綱を捌いても高知競馬の人気馬? ハルウララの連敗をストップすることが出来なくて、遂に106連敗となりました。ひよっとしたらひよっとするぞと、各地で多くのファンがかたずを呑んだあの瞬間、11頭立てで10着結果はいわゆるブービーでレースを終えました。

勝つことのみが全てと宿命づけられている競馬の世界、連戦連敗を続けるこのハルウララに、人々は何故これほど注目し競馬場に足を運ぶのでしょうか。98年11月デビュー以来、2着4回3着6回未だ届かぬ栄光の1着を目指してひたすら走り続けるその姿に、ある人は自らの人生にその姿を重ね合わせ、ある人は将来へ薄らぐ希望の灯火を点し直すと申します。

雨の後のぬかるむ馬場でのドリームレースはかくして終わりました。期待を裏切られ罵り騒ぐ輩の影もなく、殆どの人々が何やらホットした顔色と明るさで、三々五々散って行きます。明日から次のレースに向けて調整に入るハルウララに、全国区的なファンの夢はますます熱く広がっているようです。

さて私たちの従来からの常識からすると、競馬は弱肉強食の厳しい世界、連敗を続けるなど弱くて見込みのない馬は、早々と淘汰されて当然の運命にあるのですが、このハルウララには感動すべきある人との幸せな出会いがあり、それが今奇跡的なハルウララ現象の記念すべきスタートだと知りました。その人は現在彼女の調教に当たっている、宗石さん若い頃は、高知競馬のホープと目された俊英の騎手でありましたが、好成績にテングとなって生活が乱れ、後輩に後れをとるなど挫折に見舞われました。やがて心機一転心に期して酒を断ち、焦らず腐らず真面目だけが取り柄の騎乗を26年続けた現役生活が、いま負け続けていても春風のように走り抜けるハルウララに、重なって見えるといわれます。

調教師になってハルウララを厩舎に引き取ったのが98年の夏。レースに出しても臆病な性格で連戦連敗、人から処分を勧められてもある思いがあつてその気になれない。それは1頭の優秀な競走馬との辛い別れがあつたからです。その馬はレース中脚を骨折してしまい、非情なさだめに従うこととなり処分場に運ばれます。そのトラックの上から自分を見つめる目が泣いているように見えて、そのいじらしさに思わず涙してしまつたのです。そしてこれからの馬は走れる限り走らせようと決心し、調教とか管理に充分意を尽くして怪我をさせまい、無理しないとの日々を過ごしているのです。

最近のハルウララ狂想曲報道からこれらを知りました。武豊騎手がレース後のインタビューに答えて曰く、「地方の連敗記録馬に、これ程の集客力があるとは信じ難い！これも一つの名馬なりか」過去に伝説的な名馬は数多く登場しているが、何れも強い速い逞しいと表現されるが、救世主ハルウララは何と謳われようか、思わず微笑が生まれます。

宗石さんのどのような馬にも注がれる、愛情の深さと優しさに心打たれました。いつまでも幸せな二人三脚でいられますよう祈りたいと思います。お馬の目に涙については旧友から聞いた戦時下の話。若い人は続々召集され戦地へ赴き、平和に暮らしていた農耕馬もやがて徴発されて大陸へ。2度と再び帰れないことを本能的に悟るのか、振り返り振り返り引かれて村境の峠にさしかかる。大きく嘯きながら振り返るその優しい目に大粒の涙が光っていて・・・友は言う「哀しいと、馬は涙を流します」心が疼く話でした。

委員会だより

< 4月4日(日) 10名出席 >



1. 行事関連事項

- ① 高野神父様の初ミサ @ 中和教会
4月25日(日)。ミサ後お祝いのパーティー。(予算: 5万円)
- ② 復活祭のパーティー(4月11日)
司会は下村委員長。予算は、一般会計から5万円、壮年会から1万円、婦人会から1万円・・・計7万円

2. 会計報告(甲斐委員)

- * 一般会計:
・支出(渉外): (高野神父叙階祝) 30,000円

- ・支出(本部分担金;1~3月分): 119,100円
- ・支出(基金拠出金;1~3月分): 59,400円など。
- * 建設会計
・支出(エアコン工事・・・新集會室等へ設置): 285,075円

3. 信徒総会課題の検討と進捗

- ① 運営基準見直しの件
◆ 3月28日に第1回目の会合開催。(東原さん、井上さん、阿部(寿)さん、石井さん)
今後継続審議が行われる。
◆ 目標は、8月に臨時信徒総会を開いて審議していただく。
◆ 更にご意見等ある場合は来年度信徒総会にて審議頂く。

月/日	主 日	朗読・奉納	共同祈願	侍 者	オルガ ン	月/日	主 日	朗読・奉納	共同祈願	侍 者	オルガ ン